

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (沖縄)	◎	一般小売店 〔酒〕（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの患者も増えているが、新型コロナウイルスの無料ワクチンも今月より開始となり不安要素がない。
	◎	コンビニ（店長）	お客様の様子	・客層に占める観光客の割合が多くなったように見受けられる。
	○	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・月初めは、旧盆後の落ち込みで苦戦するものの、月後半の敬老の日やお彼岸といったモチベーションでマイナスを取り返し、好調に推移している。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・観光関連の需要やイベント関連の需要が上昇している。
	○	家電量販店（営業担当）	単価の動き	・来客数はいまだ前年の数値に戻らないが、単価の押し上げが売上増加につながっている。
	○	乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・8月はお盆休みで稼働日が少ない上に、台風6号が直撃して客足が鈍かった。9月は来店客数は増えたが、8月の遅れを取り戻すまでには至らない。
	○	その他専門店 〔陶器〕（製造）	販売量の動き	・自身の販売量自体は減ってはいないが、数件の取引先から夏の観光客が少なかったと聞いている。
	○	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	お客様の様子	・最近では家族連れの観光客がかなり来店している。また、スポーツイベントが多いため、頑張れニッポンという雰囲気ではテンションが上がっている。
	○	旅行代理店（マネージャー）	販売量の動き	・販売量はかなり回復してきており、海外旅行の取扱も増えてきている。
	○	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・話題性のある新商品の発売もあり販売数の前年比が101%と久々に前年を上回ることができている。ニュースやテレビCMでも取り扱われているため、10月以降も期待が持てる。
	□	百貨店（経営担当）	来客数の動き	・インバウンド関連では、中国の団体旅行解禁となるも、いまだに回復しているとはいえない。
	□	コンビニ（副店長）	販売量の動き	・3か月前と比較すると平均日販金額ではほぼ一定で、景気が回復している印象は少ない。
	□	乗用車販売店（経理担当）	お客様の様子	・客の新商品への購買意欲は高い。
	□	観光型ホテル（代表取締役）	来客数の動き	・宿泊部門は3か月前と比べてほぼ横ばいである。また、前年と比べても伸び悩んでいる。料飲部門は利用者も少なく、また人材不足により十分に稼働できていない。全体的に物価上昇により経費の上昇、給与アップによる人件費上昇で経営は赤字である。2019年比の75%で厳しい状況は続いている。
	□	住宅販売会社（代表取締役）	来客数の動き	・人件費や建築資材高騰などの影響によって建築単価が高止まりしており、建築相談件数は減少傾向にある。
	□	住宅販売会社（役員）	来客数の動き	・住宅販売に関するメールでの問合せや来客数も順調に推移しており、販売実績も安定している。
	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・現在、新型コロナウイルス感染症の状況も多少は良くなっているが、まだ完全に回復したとは言えない。景気の良い店と悪い店があるため、まだ予断は許せない。
	▲	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・極端に言えば、夏をピークに、歩いている客数は確実に減っているようにみられる。
	▲	一般レストラン（代表者）	単価の動き	・客単価がなかなか上がらずに苦戦している。新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの情報に敏感な人もいるため、客入りも不安定に見受けられる。
	×	観光型ホテル（企画担当）	販売量の動き	・ホテルの6月の販売室数が前年比105%増加とプラスなのに対し、9月の販売室数は同比7%減少とマイナスに転じている。
企業 動向 関連 (沖縄)	◎	－	－	－
	○	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・9月前半は台風による影響があったものの、売上に関しては土産、飲食のような観光関連は新型コロナウイルス感染症発生前まで戻っている印象がある。
	□	窯業土石業（取締役）	受注量や販売量の動き	・見積依頼は3か月前と比較すると公共工事、民間工事共に若干増加傾向であるが、生産、販売は横ばいの状況である。□

	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が止まったままである。
	▲	輸送業（経営企画室）	それ以外	・燃料価格の高騰、円安、10月からの食品の値上げ等で消費者の購買意欲を阻害する要因が増えている。
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
雇用 関連 (沖縄)	○	求人情報誌製作会社（営業）	求人数の動き	・求人数は5～6月にかけて減少し、6月から8月の3か月はほぼ横ばいだったが、9月は1割程度増加している。業種職種を問わず全体的な増加がみられる。
	○	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・2025年卒向けの問合せや情報交換の依頼などが増えており、実際に求人を受取る企業も数社ある。就活が前倒ししていることもあるが、今後も次年度生に向けた問合せは増えてくるとみられる。
	□	人材派遣会社（総務担当）	求人数の動き	・企業からの派遣の求人案件数が減少している。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・建設関係の求人数が連続して減少している。資材価格の高騰が影響しているのではないかと推測している。今まで求人数は増加していたが、9月は横ばい傾向となっている。
	□	学校〔大学〕（就職支援担当）	それ以外	・物価高騰による消費意欲の低下が見受けられる。
	▲	—	—	—
	×	—	—	—